

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	地域資源を活かした小学校区のエリアマネジメントについて	大阪府豊中市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	スーパーシニアバンドコンサート～いい歳こいても音楽やろうぜ～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	らいふぶれぜんつ。		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	7名		
代表者（公開）	嶋田翔太		
メンバー（公開）	田野雅 森下友香 福田航平	林紗季 松本葵 戸川そら	

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

高齢者が多いのが庄内地域の特徴。

高齢者が生き活きと過ごせる街づくりのため、音楽を軸に高齢者と音大生がコラボレーションをする。

＜この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・＞

＜「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞

＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

私たちが注目しているターゲットは**庄内に住む高齢者、音大生。**

「高齢者が生き活きと過ごせる街」を創るため、音楽を軸に高齢者と音大生がコラボレーションする。

このコラボレーション専用「大阪音楽大学特別バンド」を誕生させる。

廃校跡地を活用しオープンスペースに野外音楽堂をつくり、大音特別バンドをバックに**おじさま、おばさま**が歌を披露する。

その名も「スーパーシニアバンドコンサート～いい歳こいても音楽やろうぜ～」

これが今回の企画の大きな柱となる。

＜高齢者と若者のコラボレーション＞

高齢者が多いのが庄内地域の特徴。

庄内地域には個人経営の様々なスナック、カラオケ店や居酒屋があり、街を歩いていると歌声があちこちから毎晩聴こえてくる。そこへ通っている人は周辺に住んでいるに違いない。

日頃からカラオケに通い詰めているおじさま、おばさまに何かピッタリの企画がないかと模索した。

高齢者が普段どのような生活を送っているか正確にはわからない。

しかし、コロナ禍で病気の重症化が懸念されるのは高齢者であることからステイホームが増えているだろう。以前よりもたくさんの方が集まるイベントや外へ出かけることも制限されている。

それに伴い、人と関わる機会は激減している。

高齢者シンガーたちは以前のようにお店に歌いに行くこともできなくなり、どこでストレス発散しているのだろうか。

そんな高齢者シンガーをコロナウイルスが収束していると予想される2～3年後に大舞台上で歌声を披露してもらいたい。

普段利用するカラオケなどは狭い空間で音源はもちろんのこと生音ではない。

庄内地域には**街のシンボルとして大阪音楽大学**が存在する。

世代間交流の少ない庄内で高齢者と若い人の交流を広げていくにはこの機会にコラボレーションすることが必要だ。

そのような思いからこの企画が誕生した。

<廃校跡地を音楽の拠点に・・・>

大阪府豊中市庄内地域では「魅力ある学校づくり」計画（学校再編による6小学校・3中学校を2校の義務教育学校に再編）など様々な施策が進められている。

よって野田小学校、第十中学校が廃校となり、跡地利用を考える。

2つの廃校は隣接している。

この跡地をどのように利用していくか、未来にどのような場所を作り出すか考えなければならない。

これまで話した企画を実現するには歌を披露するための大きな場所が必要となってくる。

そこで**小中学校跡地にオープンスペースを利用した野外音楽堂をつくる。**

完成した後に、特別イベントとして実現する。

今回は高齢者に注目しているがこのイベント終了後も様々な音楽イベントを野外音楽堂にて行う考えだ。

野外音楽堂の専属バンドとして大阪音楽大学特別バンドにはイベント時には常に参加してもらおう。

高齢者シンガーを集めるということで、今回の演奏曲目は演歌や歌謡曲（1960年代～1980年代）だ。

高齢者を集めるとともに、実際に演奏する選曲については、地域のカラオケ店、スナック、高齢者施設に出向き、高齢者が持つ曲の思い出や音楽にまつわる熱意を**大学生と高齢者の対話**によって関係性を深めながら行っていく。

またここでは「音大特別バンドをバックに高齢者が歌う」企画について触れているが、楽器を得意とする高齢者も多い。そのため、音大特別バンドに高齢者が楽器演奏としても参加してもらうことも十分考えられる。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

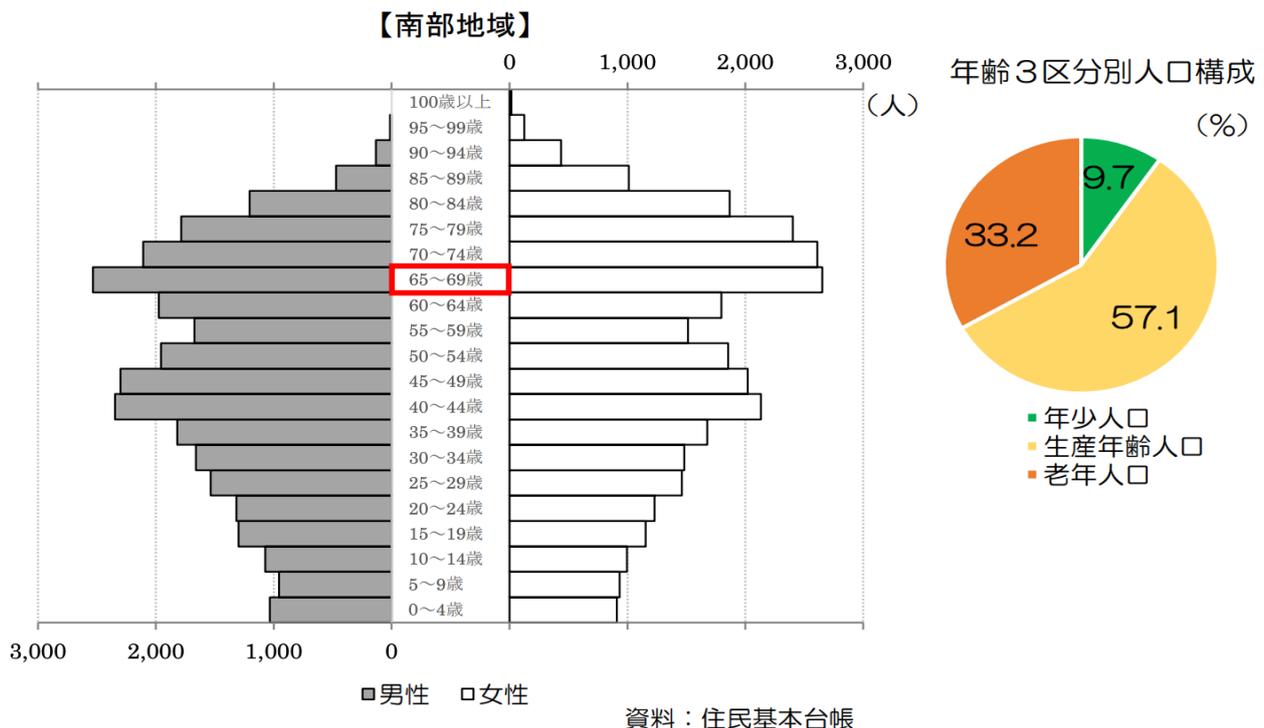
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

1. 高齢者が多い

庄内がある豊中市南部地域の人口分布図を見ていただく。



私たちがなぜ高齢者に注目したかがこの図を見るとよくわかると思う。

豊中市全体では、40～44歳の働き盛りの階層がもっとも多く老年人口は25.3%だが、南部地域では、退職世代の65～69歳がもっとも人口の多い階層であり、老年人口も33.2%と少子高齢化が進んでいる。南部地域は高齢者が本当に多く住んでいる。これからも高齢化は進むことから、必ず高齢者の対策が必要なのである。

2. 地域に音楽大学がある

創業者、永井幸次の「新音楽新歌劇ノ発生地タラン」との理念により、1915年（大正4年）に創立された大阪音楽大学。大学、短大、大学院を擁する関西唯一の音楽単科大学として、延べ35,000人を超す音楽人を世界へ送り出し、2015年に創立100周年を迎えた。また、大学生の多くを占める演奏系学生の他に、私達が所属しているミュージックコミュニケーション専攻では、音楽マネジメントを学ぶコースであり、音楽やアートを通じて地域との関わりを持つためのプログラムを積極的に実践している。

3. 世代間交流が少ない

世代間交流が少ないと感じた豊中市はこのような取り組みを目指している。

【子育て支援機能や防災機能が充実した地域拠点づくり】

- ・学校再編による教育環境の改善とともに、地域に点在する老朽化した公共施設の更新・集約化にあわせ、子育て支援機能が充実した複合・多機能型公共施設を整備し、子育て世代の居住促進を図る。
- ・加えて防災機能も付加し、災害時においても地域住民の暮らしを支える拠点とする。

【世代間交流やコミュニティ活動の推進】

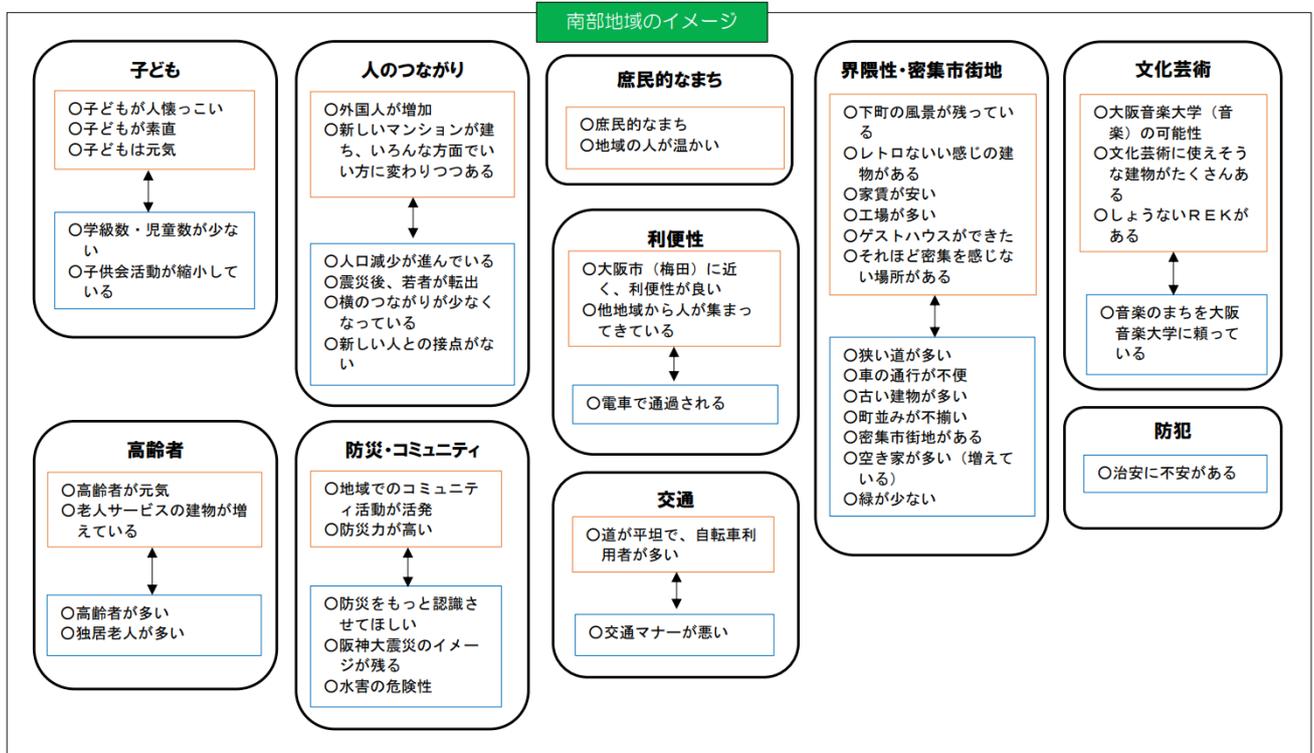
- ・地域を：担う次世代を地域全体で育む仕組みとして、新たに整備する複合・多機能型公共施設に世代間交流やコミュニティ活動を推進するスペースを創出し、子育て支援機能をさらに強化する。

【地域資源とまちづくりとの調和や融合】

- ・地域資源である大阪音楽大学の周辺道路を景観整備し、同大学や学生がまちづくりにコミットできる空間創出や気運醸成を図り、音楽あふれるまちづくりを推進する。

https://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/npo/nambu_collabo/toshisaisei.html

4. 南部地域のイメージ



<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/nanbu-a-activation/nanbukeikaku.files/nanbukousou.pdf>

2017年7月に行われた市民ワークショップでは、南部地域の現状と課題や南部地域のイメージについて意見が出され

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

た。地域の高齢者が元気であるとともに、大阪音楽大学の可能性にも言及しており、市民からもそれらの要素を結びつけるプログラムが要望されている。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

【企画に参加する主な人】

- ・庄内在住の高齢者（日頃からカラオケなどに通っている人、歌うことが好きな人）
- ・大阪音楽大学で編成された特別バンド
- ・マネジメント：大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻生、教員

【場所】

- ・イベント会場として野外音楽堂を活用
現在、検討中の小・中学校跡地の活用方法として音楽が発表できる場所（野外音楽堂）を創る。
イベントがない日は基本的に気軽に使える音楽スペース、練習に使っても良い。
- ・ 特別バンドと参加する高齢者の練習スタジオとして大阪音楽大学練習室を用意
- ・ また当面の発表は地域に多数あるスナックや居酒屋、ライブハウスなどを活動の拠点とする

【お金】

- ・ 助成金
基本的には練習など大学のリソースを使うことを想定している。また、比較的小さなプロジェクトから始めることで広報宣伝、譜面代（著作権料）の支払いなどは、豊中市、大阪府などの地域の文化や高齢者福祉にかかる助成金、大学の演習の予算などを活用しておこなっていく。
- ・ クラウドファンディング
イベントなど実際に大きなプロジェクトになった場合、クラウドファンディングなどの仕掛けを利用する。ただし、その場合寄付が期待できる高齢者にクラウドファンディングの仕組みをどのように活用してもらうかが課題。

【企画実施までの流れ】

○1年目 基礎作り

計画スタートと共にテレビ局に取材していただき、イベント終了まで長期的に追ってもらう。

大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻生が SNS などで広報。

- ・特別イベント（仮名）の歌手集め

→ スナックやカラオケ店、駅前や商店街でのピラ配り。市の広報紙や新聞に募集を掲載。

カラオケスナックや高齢者施設では実際に高齢者との対話の中で思い出を聞きながら曲を決定

- ・学内での募集（大阪音楽大学特別バンド編成スタート）（初年度前期）

→ 大学内で募集をかける。ピックバンドにしたいので幅広く広報活動する。

・顔合わせ&練習開始（初年度後期）

→ 練習場所として大阪音楽大学練習室を利用。

○2年目～跡地のリノベーション時期まで 本格的活動開始

庄内地域のスナックや居酒屋へ出向き演奏を披露

→ イベントに向けて様々な場所で演奏して、参加する高齢者を増やして経験を積むとともに曲数も増やしていく。
高齢者同士の関係の中から新たにシンガーや楽器演奏者は加入する。

○リノベーション後 イベント開催

・小学校跡地がリノベーション後、野外音楽堂で（仮名）イベントを開催

→特別ゲストとして、豊中にゆかりのあるプロのミュージシャンを招待したい。

（例：B'zの松本 孝弘さんなど）

・企画したイベントは毎年一回、野外音楽堂で定期的に行われることを目標とする。

・野外音楽堂を使って、歌祭りや毎年大きいイベントを開きたい。

松本 孝弘

大阪府豊中市出身。ギタリスト、ミュージシャン、作曲家、編曲家、音楽プロデューサー等、幅広く活躍。B'zのギタリストであり、リーダーも務める。「音楽を志す学生を応援したい、自分に続くミュージシャンの育成に繋がれば」という意向を踏まえ、豊中市の文化芸術振興基金へ寄付している。2020年、上記の寄付や『B'z SHOWCASE 2017 -B'z In Your Town-』を豊中市での開催、成人式へのメッセージ、広報とよなか『リレーエッセー』への寄稿などの功績から『豊中市名誉市民』に選定された。

このように松本さんの豊中市への貢献は物凄いものだ。ぜひ今回の企画イベントにも参加していただき日本全国へ発信していければ良いと考える。

（現状、あくまで希望であり、出演が確定しているわけではありません。）